



●特集● *Headline*

熊本地震
復旧・復興への川田グループの取り組み…… P9

KAWADA REPORT

写真：出合ゆず大橋（徳島県）
写真提供：那賀町役場



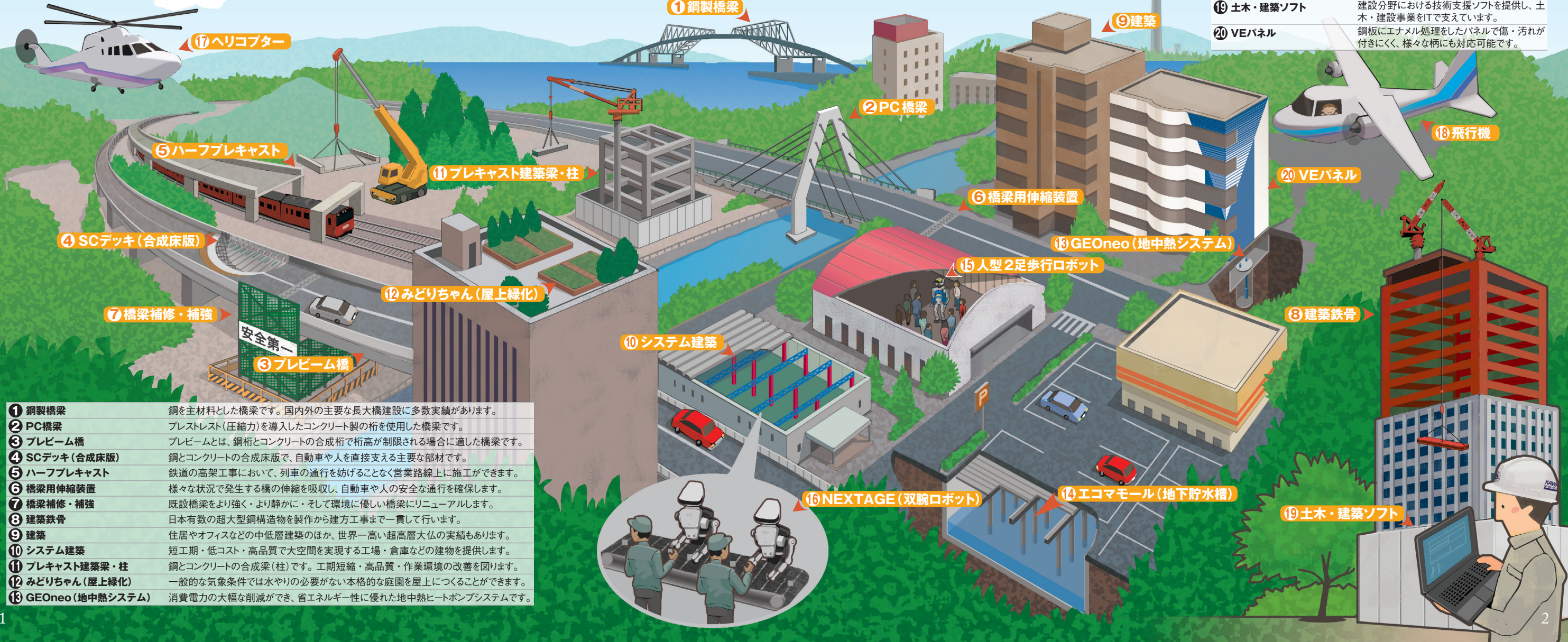
第9期 株主通信

2016年4月1日 >>> 2017年3月31日

事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループの ビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心して快適な生活環境を提供しています。



① 鋼製橋梁	鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
② PC橋梁	プレストレスト(圧縮力)を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
③ プレベーム橋	プレベームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
④ SCデッキ(合成床版)	鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
⑤ ハーフプレキャスト	鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
⑥ 橋梁用伸縮装置	様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
⑦ 橋梁補修・補強	既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁にリニューアルします。
⑧ 建築鉄骨	日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
⑨ 建築	住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
⑩ システム建築	短工期・低コスト・高品質で大空間を実現する工場・倉庫などの建物を提供します。
⑪ プレキャスト建築梁・柱	鋼とコンクリートの合成梁(柱)です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
⑫ みどりちゃん(屋上緑化)	一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
⑬ GEOneo(地中熱システム)	消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。

⑭ エコマモール(地下貯水槽)	雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
⑮ 人型2足歩行ロボット	自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
⑯ NEXTAGE(双腕ロボット)	ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
⑰ ヘリコプター	報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運行しています。
⑱ 飛行機	東京(調布)と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
⑲ 土木・建築ソフト	建設分野における技術支援ソフトを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
⑳ VEパネル	銅板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

次の100年を見据え、中期経営計画を始動。 全てのステークホルダーが幸せになる会社へ。



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

ここではインタビューを通じて、当期（2017年3月期）の営業状況をご報告し、このたび策定した中期経営計画に基づく今後の展望についてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長

川田 忠裕

Q 当期（2017年3月期）の営業状況をお聞かせください。

A 主要3セグメントが全て好調に推移。設計変更や工事採算性の改善による大幅増益を達成。

当社グループ事業は、受注から完工までの期間におけるさまざまな条件の変化により、業績予想と実績のギャップが生じることがありますが、当期はその傾向が主要3セグメント全て

において顕著に表れました。

結果として当期の連結業績は、受注高がほぼ期初の計画通りの1,083億円（前期比10.9%減）となる中で、売上高は1,034億円（同8.7%増）に拡大し、営業利益は設計変更の獲得と工事採算性の改善により期初の計画を大きく上回る増益となりました。加えて、持分法適用会社である佐藤工業株式会社の持分法による投資利益が経常利益の上乗せをもたらしました。

主力の鉄構セグメントは、橋梁事業においては前期に大型更新工事を受注した反動があり、鉄骨事業も首都圏を中心とした再開発案件や東京オリンピック・パラリンピック関連施設は好調であったものの、関西地区での受注が伸び悩んだことにより、受注は減少しました。売上高は大型案件の順調な進捗により増収を確保し、利益面は設計変更の獲得と工事採算性の改善により大幅増益となりました。

土木セグメントは、PC橋の新設発注が横ばいの中、高速道路会社・都道府県を中心に受注を積み重ねることができました。売上高は高速道路会社の大型工事の進捗が堅調に推移したことで増収を確保し、利益面は、やはり設計変更の獲得と工事採算性の改善が寄与し、前期実績の2.5倍を超える大幅増益となりました。

建築セグメントは、短工期メリット等により評価を高めているシステム建築の好調が続き、受注を積み重ねるとともに、増収・大幅増益を果たしました。

その他セグメントは、売上高が前期並みとなる中で、伸縮

継手など橋梁付属物の販売事業と航空機使用事業の損益改善が進み、利益を拡大しました。

Q このたび策定した中期経営計画をご説明願います。

A 創業100周年に向けて基盤整備を推進。その中間点の到達目標を示す3カ年計画をスタート。

当社グループは、2018年3月期から2020年3月期までを計画期間とする「第1次中期経営計画」を策定し、この4月よりスタートさせました。本計画は、2022年に創業100周年を迎える当社グループが、次の100年に向けた基盤整備を今後5年かけて進めていく上で、その中間点としての到達目標を示すものです。

本計画は、基本方針として「既存事業における収益力の強化と効率化への投資」「経営基盤の強化」「新しい成長領域の構築」「人材育成と組織能力の向上」の4つを掲げ、事業環境の変化に対応したセグメントごとの成長戦略を推進していきます。

今後の懸念材料である人手不足による労務費・外注費の上昇や資材価格の高騰などによる収益悪化リスクを踏まえながら、既存事業での受注および利益の確保に努めるとともに、新しい成長領域の拡大も目指していきます。

本計画は、最終年度の2020年3月期の連結業績における「売上高1,160億円」「営業利益47億円」の達成を目指しま

す。これは今後3年間について、前述の収益悪化リスクと成長投資の実施を鑑みて目標設定を行ったものです。

**Q 今期(2018年3月期)の見通しは
いかがですか？**

**A 収益悪化リスクの顕在化を想定し、
増収減益を予想。
今後の配当は60円を基本として維持。**

今期の市場環境は、概ね前年と同様の動きを示すものと見ていますが、東京オリンピック・パラリンピック関連案件の繁忙はより加速していくと予想されます。そうした中で当社グループにおいては、前年を上回る繰越高を確保しているものの、労務費の上昇など収益悪化リスクの顕在化を想定する必要があると認識しています。

以上を前提に今期の連結業績は、受注高1,080億円（当期比0.4%減）、売上高1,100億円（同6.3%増）、営業利益30億円（同49.2%減）、経常利益27億円（同69.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益21億円（同74.2%減）を見込んでいます。

なお今回の期末配当は、利益の大幅な増加を反映して増額し、1株当たり60円（前期比30円増配）とさせていただきました。かつての業績悪化局面において同50円からの減配を行い、前期まで同30円の水準を継続していましたが、今後は同60円の維持を目処として安定的な配当の実施に努めてまいります。

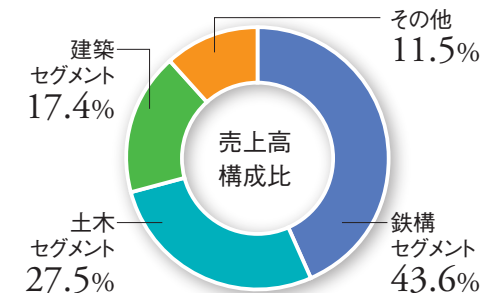
当社グループは創業100周年となる2022年に向けて、「全てのステークホルダーが幸せになる会社」を実現していきたいと考えています。「川田グループならではの」価値を創造し、今まで以上に社会から必要とされる企業を目指し取り組むことで企業価値を高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、中長期の視点で当社グループ事業をお見守りいただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

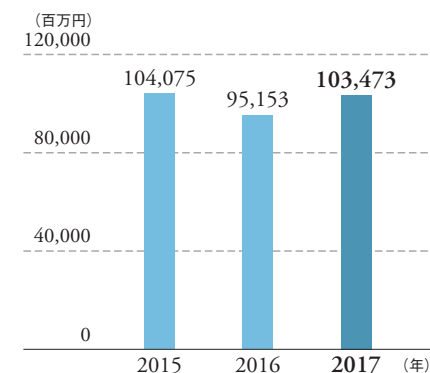


当期の決算ポイント

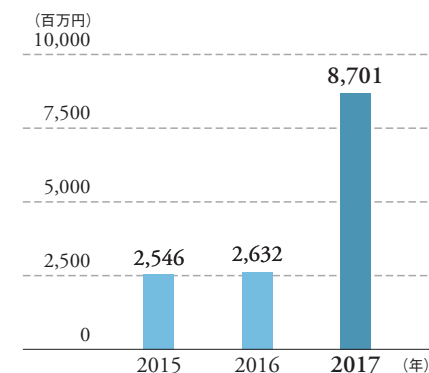
- ▶ 鉄構、土木、建築セグメントの堅調推移により、売上高は増加
- ▶ 採算性の改善および持分法投資利益の計上により、利益は増加
- ▶ 鉄構セグメントの減少が影響し、受注高は減少
- ▶ 1株当たり60円の期末配当



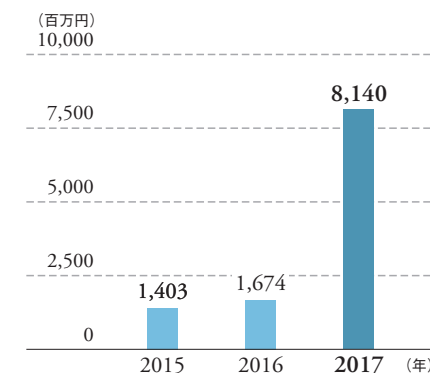
売上高



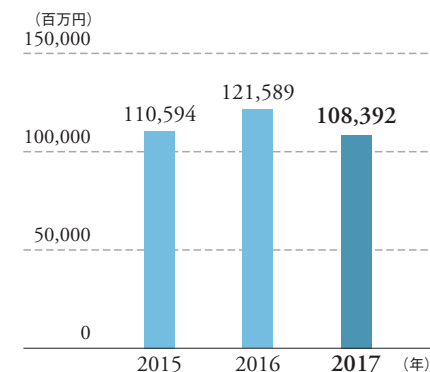
経常利益



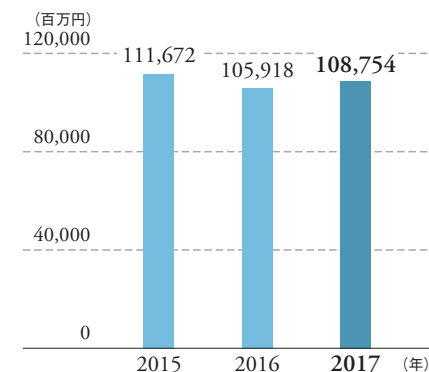
親会社株主に帰属する当期純利益



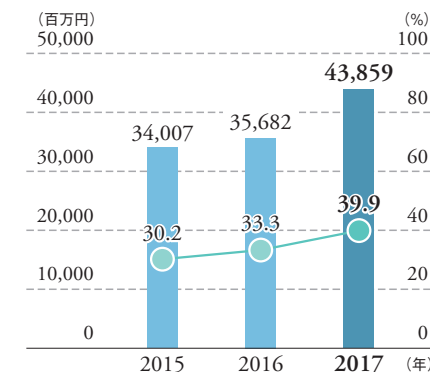
受注高



総資産



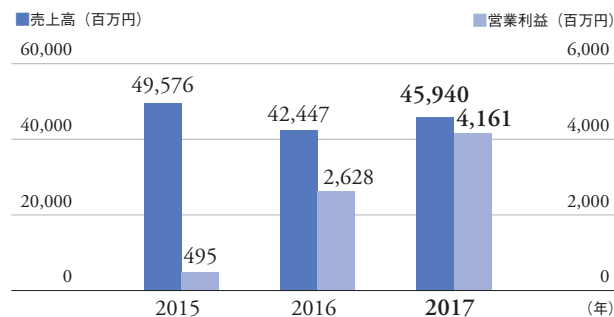
純資産／自己資本比率





鉄構セグメント

売上高 45,940百万円
営業利益 4,161百万円



橋梁事業において大型工事の進捗が堅調に推移したことや、鉄骨事業において首都圏の大型案件の製作が順調に進んだことにより、売上高は45,940百万円（前期比8.2%増）となりました。損益面では、大型工事における設計変更が獲得できたことに加え、採算性の高い工事の進捗が伸びたことにより、営業利益は4,161百万円（同58.4%増）と大幅に改善いたしました。

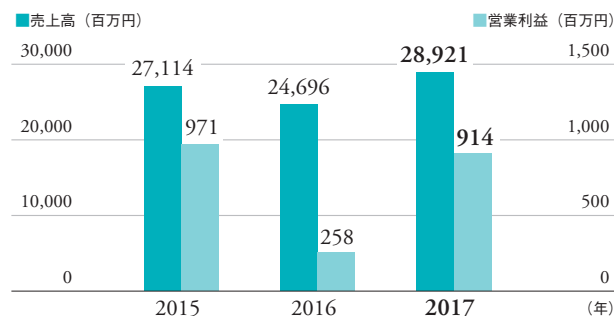


(仮称)新日比谷プロジェクト新築工事(東京都)

主な連結子会社：川田工業株式会社

土木セグメント

売上高 28,921百万円
営業利益 914百万円



前期からの豊富な繰越高の中、大型工事の進捗が堅調に推移したことで、売上高は28,921百万円（前期比17.1%増）となりました。損益面では、大型工事における採算性の改善や設計変更が獲得できたことにより、営業利益は914百万円（同253.4%増）と大幅に改善いたしました。



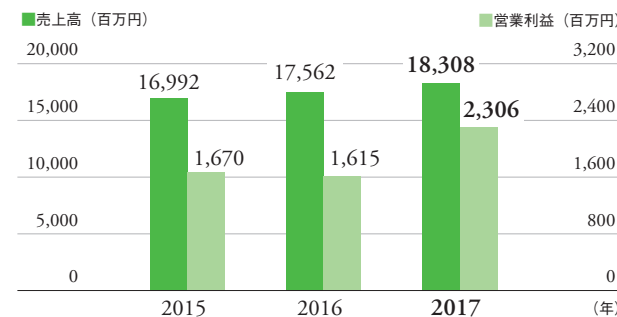
京田辺高架橋(京都府)

主な連結子会社：川田建設株式会社

(注) P7-8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

建築セグメント

売上高 18,308百万円
営業利益 2,306百万円



システム建築において引き続き大型工事の進捗が堅調に伸びた結果、売上高は18,308百万円(前期比4.2%増)となり前期を上回りました。損益面では、大型工事における採算性が良かったことに加え、全般的に原価低減が図れたことにより、営業利益は2,306百万円（同42.8%増）と大幅に改善いたしました。

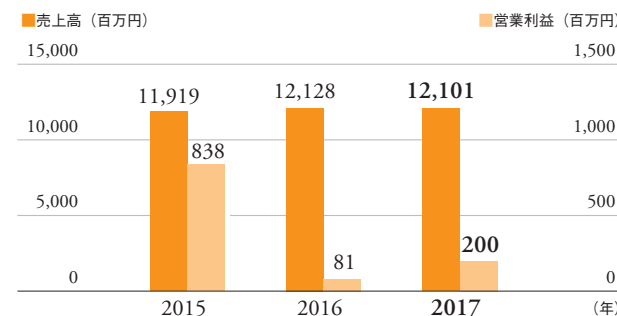


(株)ラックサービス中部ロジスティクスセンター新築工事(愛知県)

主な連結子会社：川田工業株式会社

その他

売上高 12,101百万円
営業利益 200百万円



売上高は12,101百万円（前期比0.2%減）と前期とほぼ横ばいとなりました。損益面では、橋梁付属物の販売事業及び航空機使用事業の損益改善により、営業利益は200百万円（同144.1%増）と改善いたしました。



ヘリコプター整備事業の本格化(東邦航空株式会社)

主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社
株式会社橋梁メンテナンス
東邦航空株式会社
新中央航空株式会社
カワダロボティクス株式会社

熊本地震復旧・復興への 川田グループの取組み

2016年4月14日に発生したM(マグニチュード)6.5(最大震度7)の地震を「前震」とし、16日のM7.3(最大震度7)を「本震」とする「熊本地震」。
川田グループの災害復旧と被災地の復興に向けた支援への取組みについてご報告します。



川田工業株式会社



川田建設株式会社



川田テクノシステム株式会社

木山川橋緊急復旧工事 川田工業

前震発生の翌日4月15日から九州自動車道の木山川橋（上り線）について、緊急点検を含む応急復旧工事を行いました。本橋は今回の地震の影響により、桁のずれによる支承の損傷、桁間の開き、段差などが生じ、前震発生日の4月14日から通行止めとなっていました。

震災直後は復旧の目途が立たないとまで言われていた、本橋を含む益城熊本空港ICと嘉島JCT間の九州自動車道は、本工事の実施により被災から1ヶ月と経たない4月29日には通行止めを解除することができました。



ベント設置



鋼桁の補強



川田建設九州支店から救援物資を乗せた車が出発

ライフラインなどの提供と救援物資搬送 川田工業 川田建設

川田工業において、熊本市発注の花園インター1号橋の現場では、震災直後より現場ヤードと事務所を近隣の被災者の皆様に広くご利用いただきました。また、川田建設九州支店より他支店から届いた飲料水などと併せて、被災された近隣の皆様へ救援物資をお届けしました。

鋼橋・PC橋の被災状況調査 川田工業 川田建設

（一社）日本橋梁建設協会による鋼橋の被災状況調査が約320橋で実施され、川田工業は熊本市内中心部および沿岸部エリアの25橋を担当しました。また、熊本市より（一社）プレストレスト・コンクリート建設業協会へ310橋のPC橋梁調査依頼があり、川田建設は熊本市東区の22橋を担当しました。その後、社内基準（震度6弱以上）に基づく橋梁点検を114橋で実施し、調査結果を市町村他に報告しました。

調査中に地元の方から暖かい声をかけられることが多々あり、復興に向けて少しでも力になれることに、誇りを感じることができました。



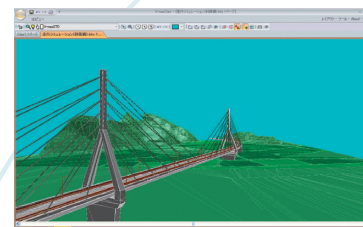
落橋防止システムの被災状況も調査



路面に段差が生じた
熊本市内の交通の要衝、白川橋



間島橋（熊本市東区）の調査



建設系3次元CAD「V-nas Clair」

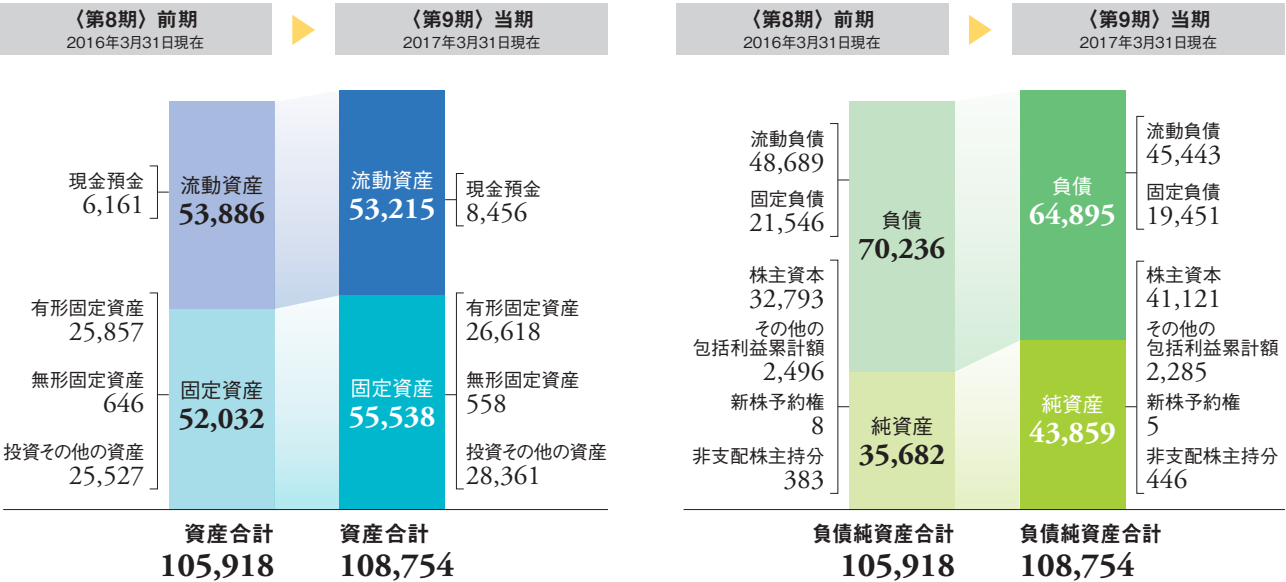
復興ソフトウェア無償提供 川田テクノシステム

震災以降、熊本県・大分県内のお客様を対象に、復旧業務に必要なソフトウェアとして建設系3次元CAD「V-nas Clair」などの無償提供を実施しました。また、災害時の情報共有ASPサービスとして「basepage」をご利用いただくなど、ICTによる復旧支援に取り組んでいます。

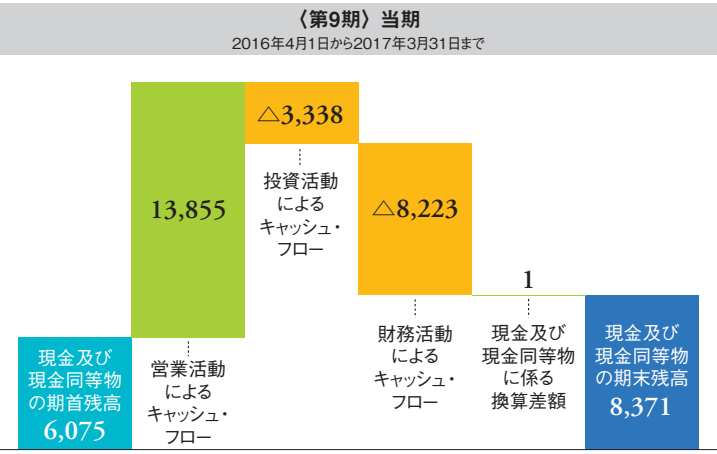


連結決算概要

■ 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)

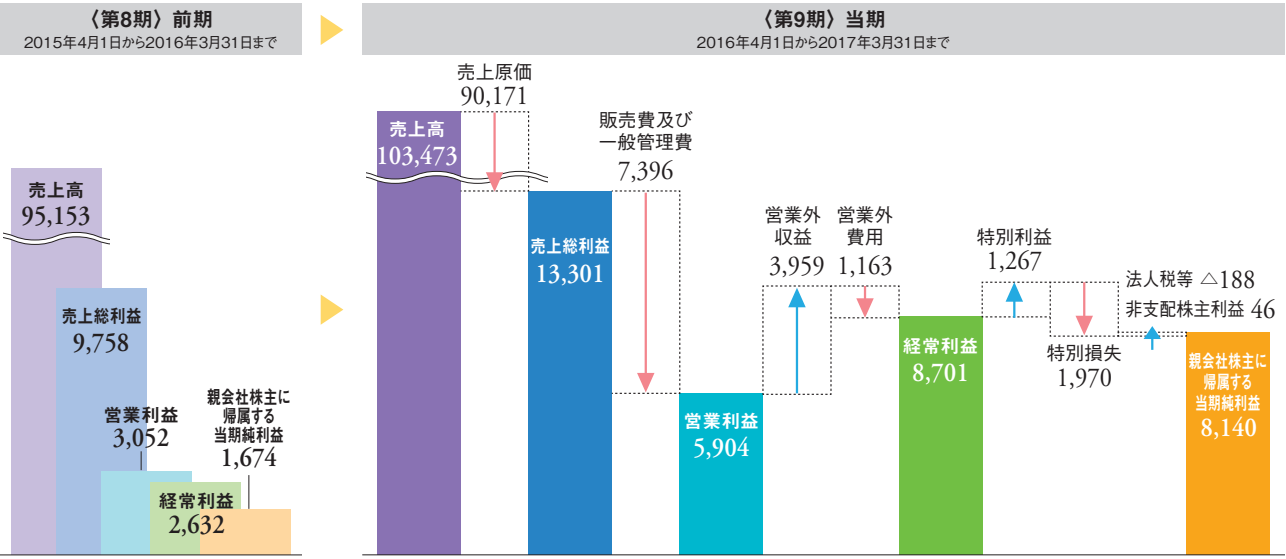


■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)

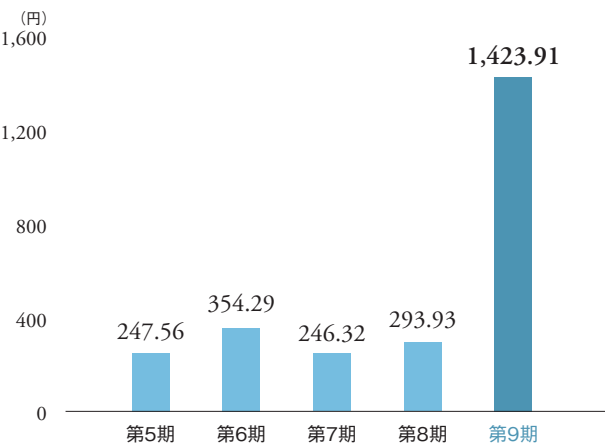


- **営業活動によるキャッシュ・フロー**
13,855百万円の資金増加(前連結会計年度は7,623百万円の資金増加)となりました。これは主に、売上債権の減少によるものであります。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
3,338百万円の資金減少(前連結会計年度は1,822百万円の資金減少)となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**
8,223百万円の資金減少(前連結会計年度は6,781百万円の資金減少)となりました。これは主に、借入金返済によるものであります。

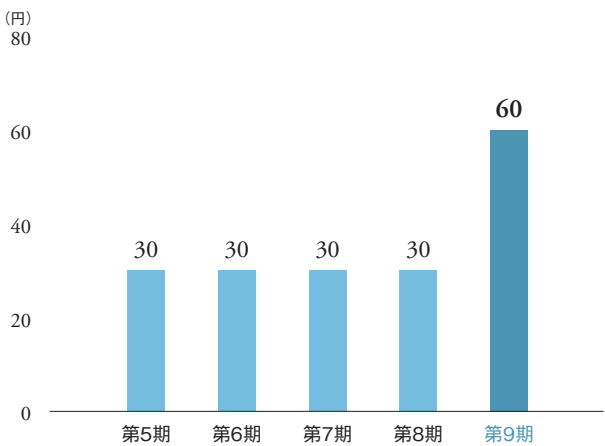
■ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



■ 1株当たり当期純利益



■ 配当



■ 会社の概要 (2017年3月31日現在)

商 号 川田テクノロジーズ株式会社
KAWADA TECHNOLOGIES, INC.

事 業 内 容 鋼製・PC 橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務

設 立 2009年2月

所 在 地 【東京本社】
〒114-8563
東京都北区滝野川一丁目3番11号
TEL: 03-3915-7722
【富山本社】
〒939-1593
富山県南砺市苗島4610番地
TEL: 0763-22-8822

資 本 金 5,135,584,000円

決 算 期 3月31日

従 業 員 数 53名(連結2,216名)

代表者及び役員 (2017年6月29日定時株主総会終了時点)

代表取締役社長 川田 忠裕 常勤監査役 山田 勇

常務取締役 渡邊 敏 監査役 岡田 敏成

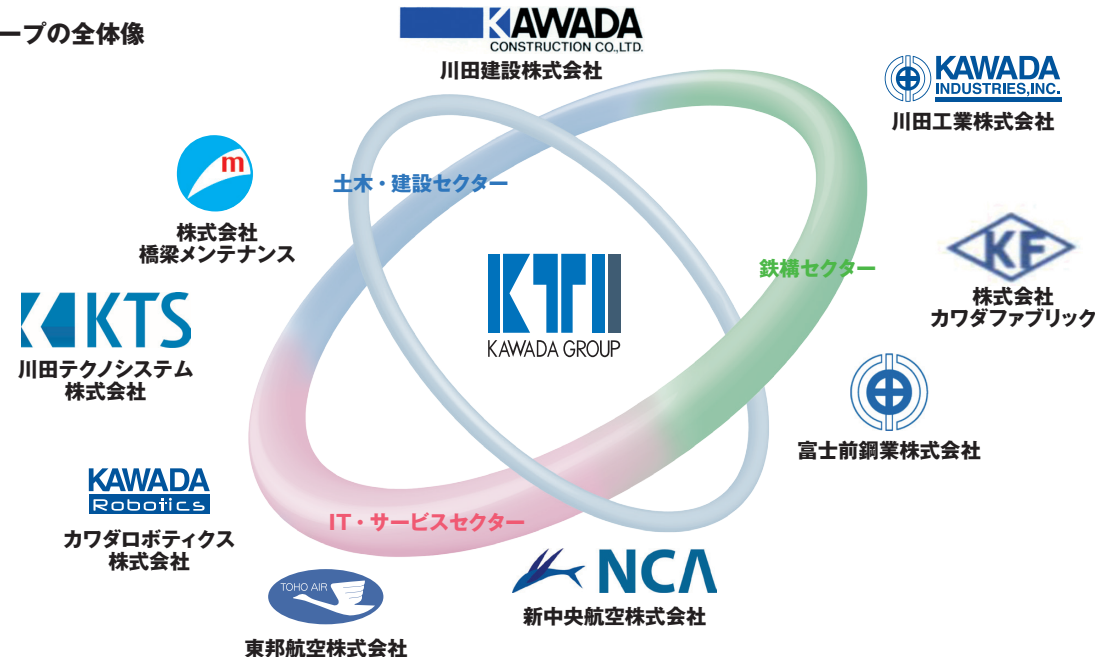
取締役 川田 琢哉 監査役(社外) 高木 武彦

取締役 井藤 晋介 監査役(社外) 高木 繁雄

取締役(社外) 山川 隆久

取締役(社外) 高桑 幸一

■ 川田グループの全体像



■ 株式の状況 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,845,070株
株主数	5,061名
大株主	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	916	15.70
株式会社北陸銀行	284	4.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	280	4.80
株式会社三菱東京UFJ銀行	265	4.55
川田テクノロジーズ社員持株会	231	3.97
川田工業協力会持株会	175	3.00
富士前商事株式会社	141	2.43
川田忠樹	104	1.79
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.71
新日鐵住金株式会社	93	1.60

※持株比率は自己株式(7,466株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

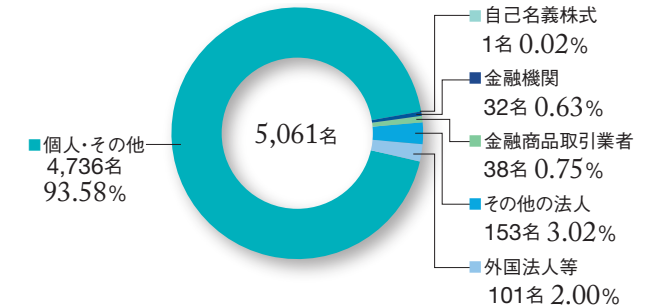
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711 (フリーダイヤル)

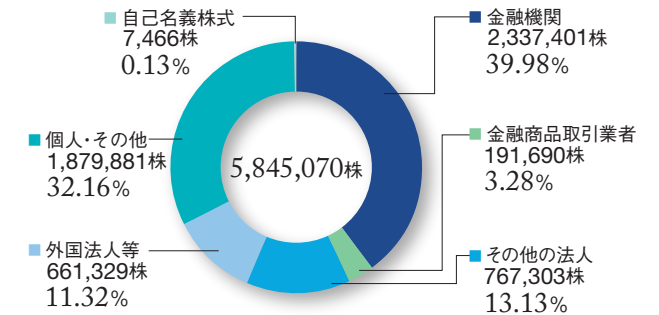
上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

単 元 株 式 数 100株

株主数構成比



株式数構成比



公 告 の 方 法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.kawada.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。